の學名の同定が度々變更された事は，1916 (大正 5) 年發行の植物園種子目錄に'*S. nemoralis* Ait. オホアワダチサウ' とあるのに，同年に發行された改訂植物名彙和名之部には '*S. occidentalis* Nutt. オホアワダチサウ' となつている事でも分る。

オオアワダチソウの正しい學名を定められたのは牧野先生で，1933 (昭和 8) 年に石井勇義氏の園藝植物圖譜 5 卷 986 頁で *S. serotina* Aiton (1789) を採用された。この學名は最近 *S. serotina* Retzius (1781) という先行名があるという理由で，**Solidago gigantea** Aiton var. **leiophylla** Fernald (1939) と變更された。本種の莖は花序を除き無毛で少しく白粉を被り暗紫色をおびるのが普通であるが稀に綠色のものもある。葉も短緣毛ある外は兩面共全く無毛で質うすく概ね鋭鋸齒がある。花は近似種に先立つて 6 月下旬から咲き初め，やや大形で總苞は長さ 3.5-5mm，舌狀花は細長い。俗にヤナギソウというものや ヤナギバキリンソウ *S. occidentalis* Torr. et Gray と呼ばれたものの大部分は本種を指し，寺崎氏の植物圖譜第 1009 圖もこれである。尙葉の下面，少くも主脈上に毛のある形が *S. gigantea* の基準形である。

他に我國では 9 月頃から咲き初め，莖や葉の下面に毛が多く，舌狀花が短小な種類が可成り古くから見られる。今迄はカナダアキノキリンソウ *S. canadensis* L. にあてられる場合が多かつたがこれは誤である。牧野先生は前記石井氏の書中でこれに**セイタカアワダチソウ**の和名を與えられたが，その際用いられた學名の *S. occidentalis* というものは全株無毛で繖房狀の花序をつけ葉は細く全邊な全く別物である。中井猛之進先生は 1936 年度の東大植物園種子目錄中に **S. altissima** L. セイタカアキノキリンサウとされていてこの同定が正しい。最近中井源氏が植物分類地理14卷15頁(1949)で同じ名稱をつけている。セイタカアワダチサウの莖は全長に毛を有し，葉はやや厚く上面も粗糙で下面には灰白毛を密布し鋸齒は往々不明瞭，總苞は長さ 3.2-4.5mm，最も花期がおそい。

一方**カナダアキノキリンソウ S. canadensis** L. はセイタカアワダチソウに比べて頭花小さく總苞は長さ 2-3mm しかなく，毛も少く莖は殆ど無毛で上部にだけ短毛を有し，葉はうすく狹披針形で概ね鋭鋸齒があり，上面は無毛下面脈上に細毛がある。舌狀花の數には兩種で差異は見られない。これと同じく小さい頭花をつける形で，莖は全長に細毛を密生し，葉下面に灰白細毛の多いものがあつて**ケカナダアキノキリンソウ** *S. canadensis* var. **gilvocanescens** Rydberg と呼ばれ我國にも栽培され，セイタカアワダチソウより早く開花する。又莖の上半にやや長い毛を有し葉下面に灰白短毛を密生するものを var. *Hargeri* Fernald といい，セイタカアワダチソウとの區別が難かしい形も多く，又兩種の間には容易に雜種もできる。

○ 印度産苔類 3 種 (服部新佐) Sinske HATTORI : Three Indian liverworts.

近年印度から *Nowellia orientalis* Chopra, *N. indica* Pande et Srivastava 及び

Cololejeunea indica Pande et Misra なる3種が記載された。戰後この原論文を讀み氣づいた所を書留めておきたい。先づ *Nowellia indica* であるが詳細な記載と圖版があるので本種の正體はよくわかる。私の考へでは *Nowellia* ではなく *Delavayella* に屬するもので而も *D. serrata* Steph. に極めて近く同一種と見做すを至當とする。强いて差を求むれば葉緣の齒牙の强弱に過ぎない。*Delavayella* は從來雲南に知られている。前述 *D. serrata* 以外にはニウギニアより裸名の1種 *D. magna* が記錄されたのみの極めて特異な屬である。從て *Nowellia indica* の產地ヒマラヤが第2の產地となる。

次に *N. orientalis* に移ると附圖はなく記載も極めて短かい。之だけでは全くどうにも困るのであるが *D. serrata* と矛盾する點はない。そして *N. indica* を記載した Pande 等も *N. orientalis* は *N. indica* と同一種かも知れない (may be identical) と註している。尙兩種は殆ど同時に發表された。

Cololejeunea indica の產地はダーヂーリングで葉上に着生する。Pande 及び Misra は比較すべき近緣種として日本產 *C. spinosa* Horikawa を選び，本種は *C. spinosa* に極めて近いが雌雄同株であること及び葉基部に ocelli を具へることから容易に區別出來ると記述した。所が *C. spinosa* も亦雌雄同株で而も ocelli を生ずるのである。どうしてこんなことになつたかと言ふと *C. spinosa* が充分に特徵を發現して居ない貧弱な標品に基いて發表されたからであらう。卽ち雌雄異株（但し雌花の記載なし）と記載され，ocelli に就ては何等言及されて居ない。

我國に於ては *C. spinosa* は *Leptolejeunea subacuta* St. に次ぐ葉上苔中の普通種で形態的變化が大きく，弱小な資料では葉基部の ocelli は餘り發達せず一寸識別しにくい。葉下片も極端に小形化する。然し日本產のものもよく發育した資料は上述 Pande 及び Misra の記載によく一致する。*C. spinosa* の記載は前記の不完全なもの以外に見當らないので兩氏が *C. indica* なる種を發表したのは無理からぬ所であるが，命名規約に從へば *C. indica* は *C. spinosa* の異名となり，後者の分布圖に印度が入ることになる。

Delavayella serrata Steph. in Hedw. 33, c. icon. (1894); Spec. Hepat. 4: 118-119 (1910). ? *Nowellia orientalis* Chopra in Proc. Ind. Acad. Sci. 8 (6): 433 (1938), sine descr. lat.——*Nowellia indica* Pande et Srivastava in Proc. Ind. Acad. Sci. 16 (6): 175-179. figs. 1-7, 9-16 (1942). Range: Yunnan, Himalaya.

Cololejeunea spinosa (Horik.) Pande et Misra in Journ. Ind. Bot. Soc. 22: 166 (1943); Hatt. in Bull. Tokyo Sci. Mus. 11: 102 (1944). *Cololejeunea venusta* (non Sde. Lac.) Evs. in Proc. Wash. Acad. Sci. 8: 146 (1906)——*Physocolea spinosa* Horik. in Journ. Sci. Hiroshima Univ. 1: 70. fig. 9 (1931); 2: 286 (1934)——*Cololejeunea indica* Pande et Misra, l. c. 164-168. figs. 27-32 (1943). Range: Japan (Honshu, Shikoku, Kyushu, Hachijo I., Yakushima I.), Liukiu, Formosa, Eastern Himalaya.